

## 福生市公共施設等総合管理計画（素案）に関するパブリックコメントの結果

【募集期間】平成29年1月6日～20日

【提出人数】1人（1項目）

	市民意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>まず指摘すべき問題は、策定が要請されているのが「総合管理“計画”」であるにもかかわらず、それを「公共施設等の今後のあり方に関する基本“方針”」に“置き換えている”か、あるいは“すり替えている”ことである。前者であるとする、“計画”と“方針”の区別がつかない、ということを示しており、所内の教育に課題がある可能性を示唆している。一方、後者であるとする、不誠実の謗りを免れない。</p> <p>いづれにしても、このような基本的な用語に対する理解の不十分さ（あるいは誤魔化し）が露呈してしまっている、レベルの低い文書が公式に、対外的に出してしまう状況については、所内のチェック体制についての点検が急務である。では、この“方針”に過ぎない内容を“計画”と呼べるものにするにはどうすればよいか？</p> <p>少なくとも以下の3点を再考し、見直す必要がある。</p> <p>1）“目的”と“手段”を混同しないこと 「身の丈に合った行政運営を目指しつつ、時代とともに変化する市民ニーズに対応するため、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、複合化・集約化・長寿命化などを計画的に行うことを目的」と書かれているが、「身の丈に合った行政運営を目指しつつ、時代とともに変化する市民ニーズに対応する」を“目的”とみなすことはできるものの、「公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、複合化・集約化・長寿命化などを計画的に行う」は手段（といっても、あくまでも（抽象的な）“目的”に対応したものであるので具体性には乏しいもの）である。</p> <p>2）目標の達成時点や目標の内容を明確にすること 上記の「身の丈に合った行政運営を目指しつつ、時代とともに変化する市民ニーズに対応する」を目的としたとき、そこに至る“過程”を想定し、それを基に、計画に盛り込むべき目標の内容・達成時期を具体化する必要がある。そのためには、目的が達成された際の“あるべき姿”と“現状”のギャップを“問題”と認識し、その問題解決に至る複数のルートと、それぞれのルートにおける複数のマイルストーン（段階）を設定しなければならない。この各マイルストーンに到達するために“なすべきこと”が“課題”である。そしてこの“課題”に、基準（どこまで、どのように、何を、など）と期限（いつ、いつまでに、など）を加えたものが“目標”にほかならない。</p> <p>3）目標を最も能率的に達成する手段を選ぶこと 目標を達成する手段（＝課題解決策）は通常、複数考えることができる。その中で、最も能率的なものを選択する必要があり、かつその選択を納得してもらうための論理的な検証がされていなければならない。そのためには、複数の解決策の案を、費用対効果／実現性／リスクなどの観点で分析し、根拠を持って優先順位を決める必要がある。この優先順位は、実行場面における状況変化等により、一度選択した解決策を変更する際の切り所にもなるものである。</p> <p>以上に述べたとおり、現状の文書は、上記の1）2）3）の内容がまったくないか、あるいは不十分であり、とても“計画”とは呼べるものになっていないので、全面的に見直すべきである。</p>	<p>本計画は、総務省通知「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針の策定について」（平成26年4月22日付総財務第75号自治財政局財務調査課長）に基づいており、公共施設等の現況及び将来の見通し、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針、施設類型ごとの管理に関する基本的な方針を記載することとされています。</p> <p>したがって、本計画の位置付けは、公共施設等の目指すべき姿や取組の方向性をまとめたものであり、計画目標の達成に向けた具体的な手段については今後策定される個別施設計画において明らかにしていきます。</p> <p>このように、公共施設等の管理に関する計画は本計画と個別施設計画の二層構造となるため、ご意見については今後の個別施設計画策定の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、本計画は現在の公共サービスを維持するために必要な公共施設等の機能を極力維持していくための取組の第一歩と捉えており、公共施設等の長寿命化や複合化・集約化等の具体的な取組については個別施設計画の中で市民の皆さんと共に検討していきます。</p>